

政策の名称	3 安全・快適な交通環境実現のための施策の推進 ・車間距離不保持違反取締装置の整備
政策の内容 ・目的	車間距離不保持違反車両に対する取締りについて、車間距離測定の正確性等証拠資料の確保に優れた車間距離不保持違反取締装置を導入し、高速道路における交通人身事故の主な原因である車間距離不保持違反を抑止し、もって、交通事故の抑止を図る。
必要性	<p>【公益性】 高速道路における交通人身事故の事故類型別発生状況は、追突によるものが過去3年間いずれも65%以上となっているところであるが、その原因として速度超過や前方不注視と併せて車間距離不保持も主な原因となっている。このため、高速隊員をして、この種交通違反の取締りを恒常的に実施しているところであるが、車間距離の測定は、車線境界線（白色破線）の長さを基に目視により行っているところであり、その取締りには、相当な経験を有する高速隊員の技術が必要なことから、新たな取締り資機材の開発が求められていた。 このような状況の中、車間距離を機械的に測定し、車間距離測定の正確性、違反車両等の走行状況、違反場所の特定など証拠資料の確保に優れた装置が開発されたことから、これを全国に整備し、車間距離不保持に起因する事故防止を図る必要がある。</p> <p>【官民の役割分担】 交通違反の取締りは、警察の犯罪捜査権限に基づき行うものであり、そのために必要な機材の整備は、警察において行う必要がある。</p> <p>【国と地方の役割分担】 高速道路における道路交通法に規定する犯罪等の捜査に必要な物件費等は国において支弁することとされている。</p> <p>【民営化・外部委託の可否】 犯罪捜査に関する権限が警察等司法機関に限定されているので、民営化・外部委託は不可能である。</p> <p>【緊急性の有無】 交通事故が年々増加し、過去最高を記録する中で、効果的な交通違反の取締りを緊急に推進する必要がある。</p> <p>【他の類似政策】 なし</p>
達成効果等	<p>【今後見込まれる効果】 車間距離不保持違反の取締りを効果的に実施できることから、危険性の高い車間距離不保持の抑止及び車間距離不保持違反に起因する交通事故の抑止に効果が期待できる。</p> <p>【効果の発現が見込まれる時期】 当該装置については、整備直後から交通違反取締りにおいて活用が可能であり、効果が期待できる。</p>
予算額	【平成15年度要求額】 52,190千円
効率性	<p>【代替的手段の有無】 現行の目視による取締り手法は、取締りのための高度な技術と経験が必要であることから、車間距離を機械的に測定し、車間距離測定の正確性、違反車両等の走行状況、違反場所の特定など証拠資料の確保に優れた車間距離不保持違反取締装置を導入は不可欠であり、代替的手段はない。</p> <p>【他の事業との連携】 なし</p> <p>【効果とコストとの関係についての分析】 当該装置は、一定の訓練を行うことにより取締りを行うことが可能となるものであり、車間距離を機械的に測定し、車間距離測定の正確性、違反車両等の走行状況、違反場所の特定など証拠資料の確保など効果的な取締りが可能となることから、現行の目視による取締りの技術を身に付けることがかなりの経験を要することを考慮すると、低いコストで高い効果をあげることが</p>

	できる。		
学識経験を有する者の知見の活用	なし。		
その他	平成11年 警察装備開発改善コンクールにおいて警察庁長官賞受賞 平成12年 科学技術庁長官賞受賞（創意功労者）		
政策所管課	交通企画課	評価実施時期	平成14年8月